

事例番号:270046

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第二部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

2 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 6 日

16:20 陣痛開始で入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 6 日

16:45 自然破水、羊水混濁なし

内診、子宮口の開大 6cm、臍帯下垂あり医師へ報告

16:49 胎児心拍数低下

児頭挙上、骨盤高位、臍帯脱出の診断で緊急帝王切開決定

妊産婦・家族へ帝王切開に関し書面を用いて説明し同意取得

手術室へ出棟、入室

16:50 帝王切開開始

17:10 児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 6 日

(2) 出生時体重:3426g

(3) 臍帯静脈血ガス分析値:

pH 6.906、PCO₂ 103.6mmHg、PO₂ 8mmHg、HCO₃⁻ 20.5mmol/L、BE -12mmol/L

- (4) Apgarスコア:生後1分0-1点、生後5分1点
- (5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)、胸骨圧迫
- (6) 診断等:重症新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、Sarnat分類3度
- (7) 頭部画像所見:
 - 生後7日 頭部超音波断層法:右小脳にhigh echo(高輝度)部分あり
 - 生後22日 頭部MRI:「両側基底核部に異常信号が認められる」「両側被殻・視床外側にT1WIhigh(T1強調画像高信号)、T2WIhigh(T2強調画像高信号)の異常信号が認められる」「比較的 typical な低酸素脳症の所見」

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 診療区分:診療所
- (2) 関わった医療スタッフの数
 - 医師:産科医2名
 - 看護スタッフ:助産師3名、看護師1名、准看護師6名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は臍帯脱出による低酸素性虚血性脳症であると考えられる。
- (2) 臍帯脱出の発症時期は、破水した妊娠38週6日、16時45分頃と考える。

3. 臨床経過に関する医学的評価

- 1) 妊娠経過
 - 妊婦健診は一般的である。
- 2) 分娩経過
 - (1) 入院時の対応(分娩監視装置装着)は一般的である。
 - (2) 臍帯脱出と診断し、児頭挙上、骨盤高位を行い、帝王切開決定から21分で児を娩出したことは適確である。
- 3) 新生児経過
 - (1) 新生児蘇生は一般的である。
 - (2) 高次医療機関NICUへ搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

B群溶血性連鎖球菌検査は妊娠33週から37週に実施することが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編2014」では、妊娠33週から37週での実施を推奨している。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。